

週刊文春

10月26日号 230円





早川謙一院長

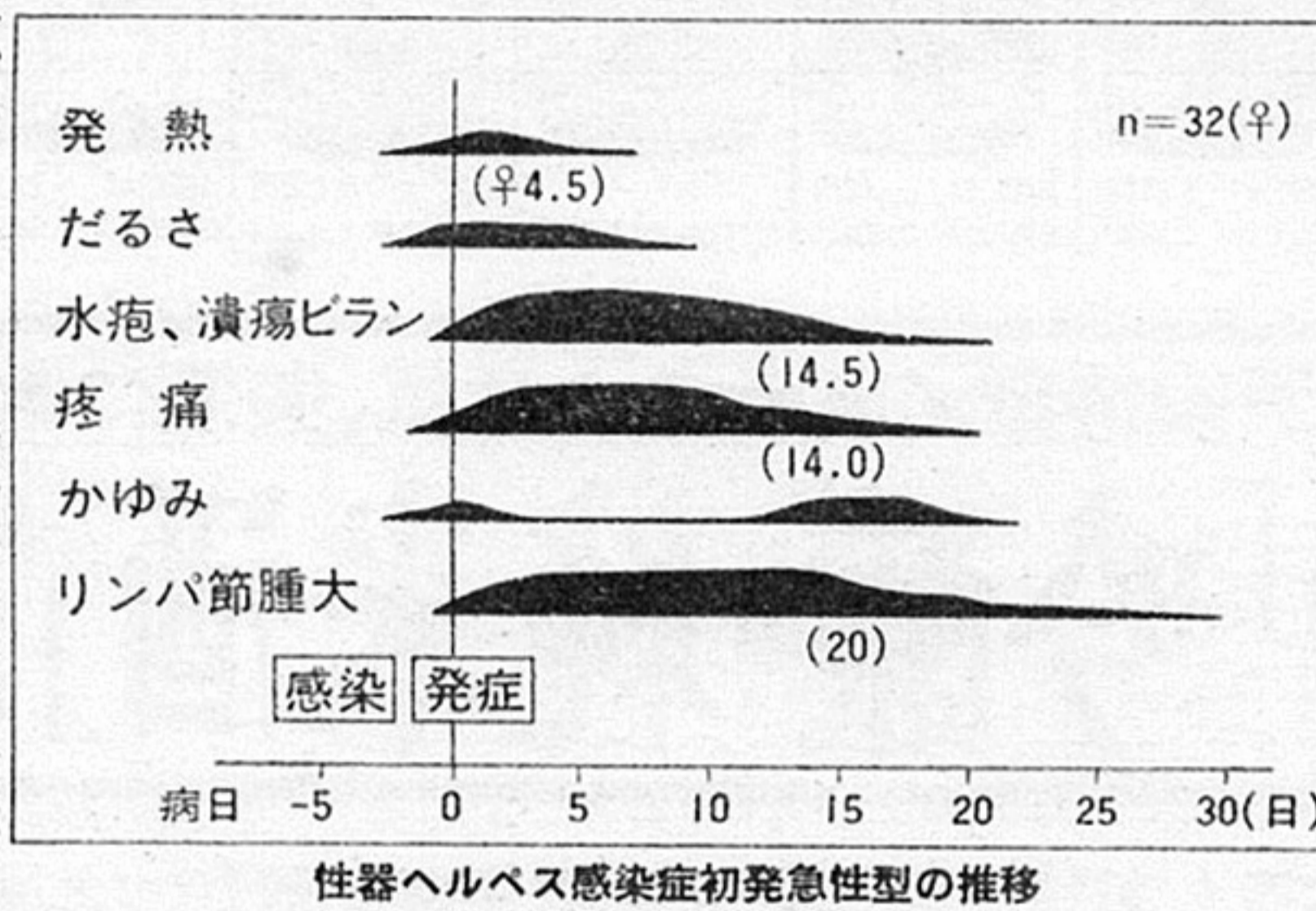
早川クリニック

ヘルペス感染症が早く軽快する アシクロビル療法

御堂筋に面して心齋橋の大丸百貨店前といえば、大阪では超一等地。そのビルの三階にあって婦人科を中心とする「早川クリニック」には、場所柄、近くのおフィスに勤める女性の患者が多い。もちろん独身Oも既婚者もいて、近ごろは妊娠中も働く人が多いから、出産前の定期検診にも便利だ。が、そればかりでなくこの診療所は、いまひそかに蔓延しているヘルペス感染症治療の最前線としても活躍している。

早川謙一院長が大阪大学微生物研究所助教授をへて、この地に開業したのは一九八二年。以来院長は奇妙な経験を積んだ。最初の年は六十三人だった生殖器ヘルペス患者が翌年百二十人以上。三年目には二百人以上と増加してきたのである。患者に、もちろん特殊なサービスに従事している人はいない。このことが、阪大微研では子宮ガンとウイルスの関係について研究していたという背景があつて、院長に深い関心を抱かせることになった。

ヘルペスはウイルスによって起こる病気で、これには幼児に



性器ヘルペス感染症初発急性型の推移

水痘、そして免疫の低下を起し、高齢者に帯状疱疹を起す水痘・帯状疱疹ヘルペスと、単純ヘルペスとがある。単純ヘルペスウイルスはさらにI型とII型に分れる。免疫力が弱まったリカゼをひいたりしたときなど、くりかえし発症する口唇ヘルペスに似るが、その後性器に水疱、ピランを生じて激しく痛み、リンパ節が腫れることもある。ときには排尿困難や歩行困難も伴い、この症状は一週間から十日つづく。ことに女性に症状がひどく、感染したウイルスはII型といわれているが、早川院長によると、

「私の外来経験では、I型もII型も同じように発症します」

男性も時に性器が腫れるなどの重症を示すことがあるが、一般に女性よりは軽い。

ともかくこのように初発急性型で症状が激しいが、とくにII型の場合は再発しやすく、症状はやや軽いがほとんど定期的に発症する人もあつて、悩まされる。感染の機会もふえる一方、ウイルスが感染していても発症しない人も多いので、男女間のトラブルが起こることもある。

もちろん病院に行きにくい病気である上に、ウイルス病の特徴としてよい治療法がなく、大病院などを訪ねても、「放っておけば治る」ですまされることが多かった。

再発の兆候には錠剤を

だが、幸いなことに大変効果のある薬がアメリカから生まれしてきた。薬の名前はアシクロビルという。情報をキャッチした早川院長はただちに入手し、治療に使用。期待を裏切らない効果があることがわかり、その紹介につとめてきた。ことに初発急性期にこの薬の点滴静注で早期治療すると痛みが抑えられ、軽快を早くする。そして再発の兆しがみえたら、早めにアシクロビルの錠剤を内服するのが適切。副作用もほとんどないという。

しかしそのためにはできるだけ早期に診断することが先決。その診断法も進歩している。まず初診で大体は診断はつくが、そのほかに局所の水疱や潰瘍をとって塗抹標本による細胞診、血液中の抗体の血清学的診断があり、最近ではモノクローナル抗体による蛍光抗体検査法が出現して、短時間で確定診断がつけようになった。

ともかくこのような有力な治療法が現われてきたので、「このウイルスによる症状が多彩であることもあつて、診療科が各科に散らばるところに問題があります。各方面に知識が増して、普及することが望ましいと思います」

と、早川院長は強調した。

(早川クリニック 〒542 大阪市中央区西心齋橋1-4-5 御堂筋ビル3階 電話06・245・2100)